

沖縄県がん診療連携協議会

委員各位

大腸がん死激減プロジェクト連絡会議

佐村 博範

(浦添総合病院 下部消化管外科部長)

大腸がん相談室開設のお知らせ

1. 目的

沖縄県内の治療方針の選択に難渋する大腸がん症例を抱える医師を支援するシステムを「おきなわ津梁ネットワーク」内に設け、相談症例の治療方針を協議すること、および検討の経過とその結果の開示を通して、県内医療機関の大腸がん診療の均てん化とレベルの向上を図る。

2. おきなわ津梁ネットワーク利用の理由

(1) ネットを利用した、時間と空間にとらわれないカンファレンスが構築できる。カンファレンス参加者を確保（質の担保）ができ、協議内容は自動的に議事録として残される。

(2) 相談症例の検査データや画像情報等を相談員自ら確認できることから資料の準備が最小限で済む。LINE の様なチャット機能で協議が可能。

3. 運用方法

相談員は相談室室長が大腸がん相談室相談員を選任：大腸外科医・肝臓外科医・呼吸器外科医・消化器内科医・腫瘍内科医・放射線科医・その他必要に応じて緩和医師等を加え構成される。

相談員はできる限り迅速に回答する。原則としては、一両日中での回答を予定している。

4. 事例紹介

(1) 60歳代、女性、A病院。直腸癌、子宮浸潤、多発肝転移、多発リンパ節（Virchow、傍大動脈）転移例。治療レジメン選択は？

(2) 60歳代、男性、B病院。直腸癌術後、多発肺転移再発、化学療法中。Conversion 可能か？

(3) 50歳代、女性、C病院。直腸癌術後再発。播種または局所再発症例。治癒切除につながられるか？

(4) 60歳代、女性、A病院。上行結腸癌術後、多発肺転・移肺転移症例。Conversion 可能か？

(5) 40歳代、男性、A病院。右総腸骨リンパ節転移再発症例、サイバーナイフ後最増大例。手術か重粒子か化学療法か？

(6) 80歳代、男性、A病院。S状結腸癌、多発肝転移、リンパ節転移症例。Conversion の可

能性は？

(7) 50歳代、男性、B病院。肝転移、仙骨転移直腸癌症例。集学的治療の方法は？

(8) 50歳代、女性、A病院。下行結腸癌多発肝転移症例。化学療法奏功しているが非治癒因子あり。今後何ができるか？

<沖縄県大腸がん相談室利用方法>

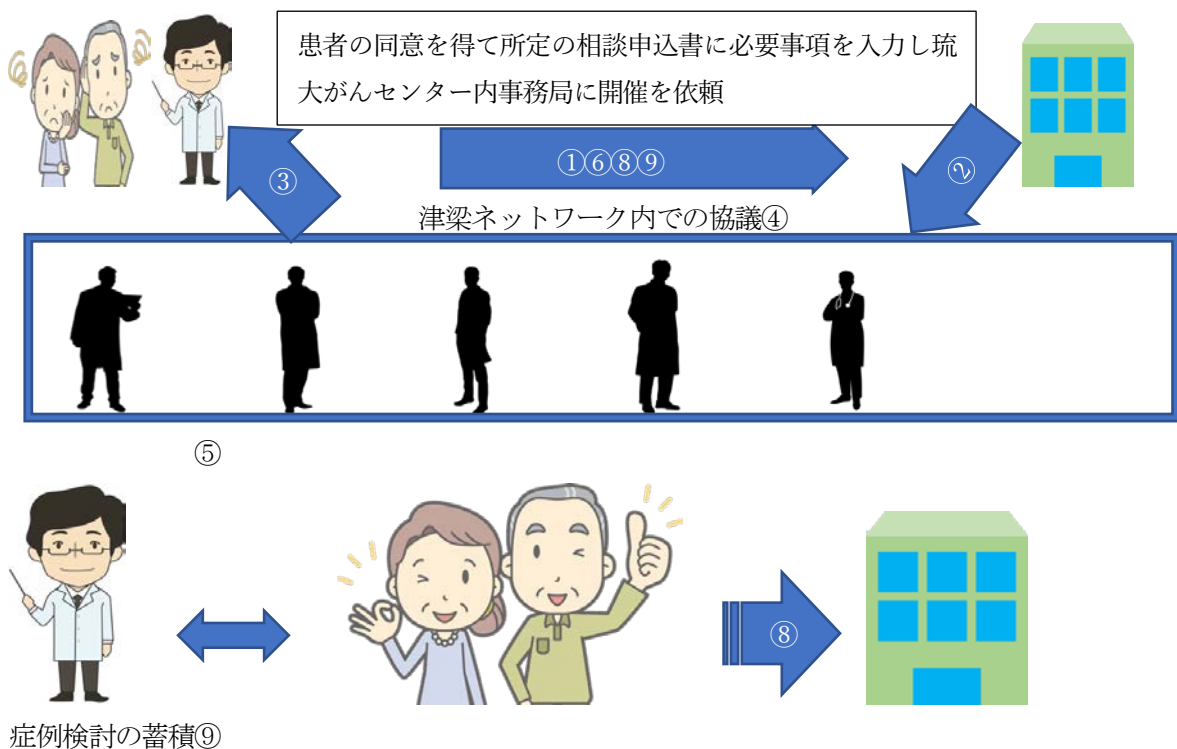
相談の流れ

相談したい医師が患者（津梁ネットワーク登録症例）の相談同意*を得て症例提示資料を津梁ネットワーク内に作成し、相談申込書*と事務局（琉大がんセンター内に設置予定）または浦添総合病院外科佐村に相談会開催を依頼。（*準備されたものがあります。）

- ① 事務局または佐村から相談室メンバーに相談症例が有ることを通知。
- ② 相談員が資料を確認し、推奨治療方針とその選択の理由を回答。
- ③ 相談医師と相談室メンバーで必要に応じ協議（津梁ネットワーク内津梁トークを使用）。
- ④ 相談医師が方針を決定。
- ⑤ 相談医師は治療経過を適宜報告。
- ⑥ 今回の治療方針が決定した時点で症例検討終了。
- ⑦ 必要に応じて再度相談可。
- ⑧ 相談医師より最終経過報告で相談会終了。

相談医師

琉大がんセンター内事務局



管理部は報告書を患者匿名の形でアーカイブし津梁ネットワークに保存。ネットワーク加入医師が閲覧できるようにする。